

第7回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会について

このたび、第7回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会(7th. Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention)を東京で開催することになった。

国際自殺予防学会[正式名称:International Association for Suicide Prevention(IASP)]は、1960年にウイーンの数学者 Erwin Ringel 教授によって創設された。筆者は1979年にカナダ・オタワ市で開催された第10回総会において、稲村博教授(筑波大学、当時)とともにリングエルと会った折に、日本での学術大会開催を要請された。しかしその当時は、国際自殺予防学会のカウンター・パートナーである日本自殺予防学会の組織が小さかったことを理由に断った経緯がある。

その後、90年代になって、日本自殺予防学会の創立者で事務局長でもあった増田陸郎教授(昭和女子大学)が引退し、稲村教授が後を引き継いだものの、1996年に60歳で亡くなった。しばらく事務局長が不在であったが、2005年に張賢徳教授(帝京大学)が事務局長に就任、組織の立て直しを図り、会員数も飛躍的に増加して今日に至っている。この間、事務局を代行したのは日本いのちの電話連盟であった。連盟はごく初期のころから日本自殺予防学会と連携し、全国各地で自殺予防シンポジウムを開催し、2001年からは国の自殺対策に参画し、日本自殺予防学会と共催のシンポジウムについても予算を託され大きな役割を担ってきた。

今回の国際会議は、IASP 日本代表で学会常務理事の河西千秋教授(札幌医科大学)が大会事務局長となった。今回の大会は特にアジアという視点が重要になると思われる。ことにアジア地域の自殺問題の背景には、人口規模はもちろん、多様な文化的、社会的背景があり、国際的に大きな関心が持たれている。2016年は、わが国が自殺対策基本法を制定して以来、満10周年にあたり、この大会は、日本の自殺対策をさらに推進する契機となると期待される。

多数の参加を願いつつ、各方面からのご支援を仰ぎたい。大会は、第40回日本自殺予防学会総会との同時開催であるが、同学会の詳細は以下のリンクから参照されたい

(<http://www.jasp.gr.jp>)

齋藤友紀雄(日本自殺予防学会理事長・日本いのちの電話連盟理事)